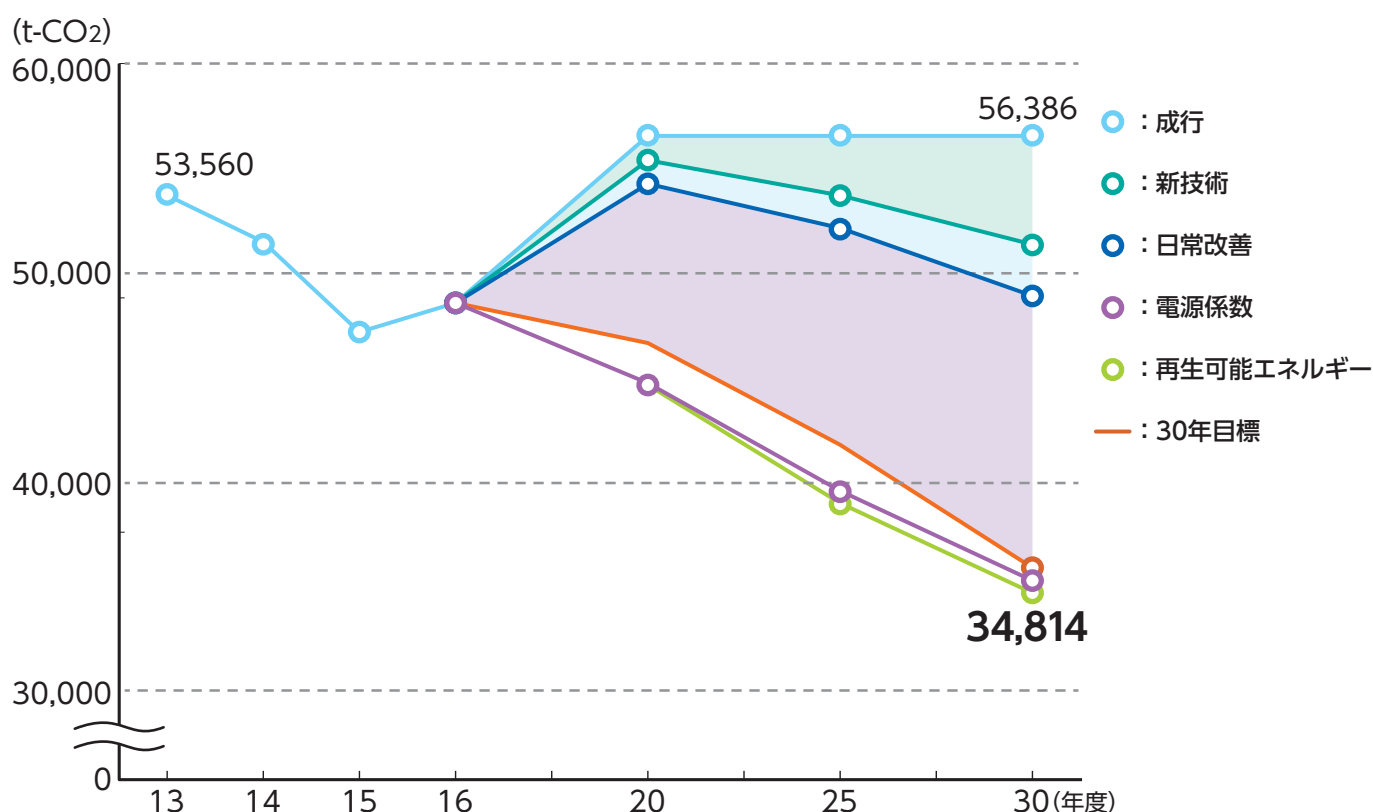


脱炭素社会に向けた 大豊グループのチャレンジが始まります

2016年11月に「パリ協定」が発行され、国や企業などの脱炭素社会構築の取り組みが加速しています。当社でも、この社会的課題の解決に取り組むため、「2030-CO₂削減中期シナリオ」を策定し、従来の活動を加速したチャレンジを開始しました。今回は、このシナリオの概要を紹介します。

CO₂総排出量の予測と目標

「2050年CO₂排出ゼロ」に挑戦するため、「2030年CO₂排出35%減」というチャレンジ目標を設定しています。将来のCO₂総排出量は、2018年3月時点での予測であるため年々予測値の精度を高めながら、3つの方策を中心に取り組みます。



● 「CDP Supply Chain」への協力

トヨタ自動車(株)から展開されているCDPサプライチェーンプログラムに、当社も参加しています。

方策1 生産技術革新

事業活動の拡大とともに、生産ラインも拡大されます。可能な限りエネルギー使用を抑制した生産ラインを設計するため、新ラインの省エネ化に取り組みます。

キーワード

- 素材ラインの熱効率向上
- 高効率インフラへの更新



大豊岐阜(株)ヒートポンプ

方策2 生産現場の改善

これまでの省エネ活動の継続も重要な取り組みの一つです。非稼働時のエネルギー低減も、工場非稼働日から「直間」や「休憩時」にも取り組みを拡大していきます。

キーワード

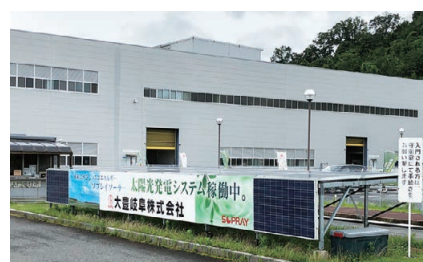
- 非稼働時のエネルギー低減



相互点検会

方策3 再生可能エネルギーの導入

CO₂を発生させないグリーンエネルギー導入の検討を開始しています。太陽光などの自家発電に加え、非化石証書など技術的・社会的動向に合わせた柔軟な対応を検討してまいります。



大豊岐阜(株)太陽光パネル

● 持続可能な開発目標「SDGs」との関連性

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsの17の目標に対し、当社の2030-CO₂削減中期シナリオは「13 気候変動に具体的な対策を」と関連付けができます。

今後、当社内でSDGsの理解を深め、事業との関連性を認識していきます。

13 気候変動に
具体的な対策を

